

教 育 長 様

代表者 校 園 名 : 大阪市立下福島中学校校 園 長 名 : 松永 尚子電 話 : 06-6441-6004 FAX : 06-6441-6786申請者 校 園 名 : 大阪市立住之江中学校職 名 ・ 名 前 : 教諭 畑澤 晃子電 話 : 06-6683-0001 FAX : 06-6686-1619代表者校 園 事 務 職 員 名 : 上西 龍也

## 平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 報告書

◇ 平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究について、次のとおり報告します。

1 研究コース : いずれかを○で囲んでください。個人研究コース ・ グループ研究 A コース ・ グループ研究 B コース継続研究 : いずれかを○で囲んでください。 継続研究 ( 2 年目 ・ 3 年目 ・ 4 年目 )

2 研究テーマ

「ICT を活用したアクティブラーニングの授業の実践と評価の研究  
～次世代を育てるデジタル教育の推進と共有をめざして～」◆ 研究内容のキーワード : 研究の内容をキーワードで書いてください。 (【例】学力向上、体力向上等)

- ・ ICT 教育における教材開発 (インタラクティブ性の活用検討)
- ・ 授業力向上
- ・ ICT を活用した授業の共有化
- ・ アクティブラーニング
- ・ 21 世紀型能力

3 研究目的 : 箇条書きで端的に書いてください。

- ICT を活用した生徒の「学ぶ意欲の喚起」
- ICT 教育における「教材開発」とその「共有化」
- アクティブラーニングを活用した授業の研究
- 生徒の「学力向上」と教師の「授業力の向上」

4 取り組んだ研究内容 : いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。

- ① 6 月 5 日 (日)・・・研究方針の確認と研究領域の明確化
- ② 6 月 25 日 (土)・・・協同学習の研究のため広島市立祇園東中学校研究授業公開協議への参加
- ③ 7 月 12 日 (火)・・・アクティブラーニングを取り入れた授業の研究 (模擬授業)
- ④ 8 月 4 日 (木)・・・ICT を活用した授業について指導案検討
- ⑤ 第 1 回大阪市家庭科教諭対象 ICT 活用授業実態調査
- ⑥ 8 月 8 日 (月)・・・アクティブラーニングについての学習会開催
- ⑦ 8 月 18 日 (木)・・・先生の為の金融教育セミナーへの参加
- ⑧ 9 月 15 日 (木)・・・今後の研究方針の確認と ICT 教育における教材の共有化について検討
- ⑨ 10 月 13 日 (木)・・・関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会への参加
- ⑩ 11 月 26 日 (土)・・・研究授業指導案検討と打合せ
- ⑪ 12 月 13 日 (火)・・・がんばる先生家庭科研究発表会開催
- ⑫ 第 2 回大阪市家庭科教諭対象 ICT 活用授業実態調査
- ⑬ 1 月 20 日 (金)・・・ICT 活用授業公開授業参加 (昭和中学校)
- ⑭ 2 月 3 日 (金)・・・ICT 活用授業公開授業参加 (築港中学校)  
がんばる先生研究内容成果・課題検討

詳細は冊子内にあります。

5 成果・課題：申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。

①当初検証方法案：大阪市の技術家庭科家庭分野教師のICT活用授業数を年度当初と2学期末とで比較し、実践割合を40%増加させる。

年度当初の有効回答者数・・・91、2学期末の有効回答者数・・・44であった。全市にアンケートの回答を何度もお願ひしたがなかなか協力を得られず、上記の結果となっている。しかし、年度当初のアンケートにおいて、ICTを活用している教師は全体の62%であったのに対し、2学期末は81%という結果になっている。この結果は、有効回答者数が違うため、一概にICT活用の授業が増えてきたとは手放しには言えないと思うが、ICT活用モデル校をはじめ、様々な研究がされており、家庭分野の教諭もたくさんの研究授業を行っており公開授業研究会などで学びを深める機会を多数提供していただいている。今後、このアンケートをとる方法は改善の余地があると思うが、全市的に家庭科教諭が連携をし、どの領域でICTを活用した授業が生徒の学力向上に効果が見られるかを研究する必要があると考えている。

②当初検証方法案：研究グループ所属校において観点別学習状況の評価を1学期末評価と2学期末評価を比べ、「C」の割合を各観点において20%以上減少させ、また「A」の割合を10%以上増加させる。

	1学期				2学期			
	関心	工夫	技能	知識	関心	工夫	技能	知識
A	52	24	50	18	54	41	47	12
B	97	74	98	88	87	99	96	84
C	8	59	9	51	16	17	13	60

上記はある研究所属校の観点別学習状況の評価の人数の推移である。

申請時には②のような検証方法を提示していたが、4観点すべてにおいて予想していたような結果が得られなかった。しかしながら、今回の研究の成果と考えられるのが「工夫創造」の観点である。

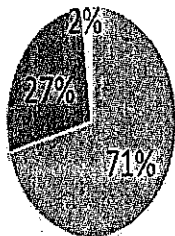
「C」の観点が1学期を基準に約27%も減少し、「A」の評価が1学期を基準に約11%も増加している。アクティブラーニングやICTを活用した授業を取り入れた結果、生徒が自ら学び、工夫し創造する力の育成に一役買うという検証結果が得られたと考える。「生活を工夫し創造する能力」はこれからの社会をよりよく生きていくためには必要不可欠な能力と考える。この結果が得られたことに、今回の研究の意味があったのではと考える。しかし、他の3観点において、顕著な結果が得られなかったことは、授業の方法などの改善の余地があると考えている。他校においてもほぼ同様の結果となっている。

③当初検証方法案：研究グループ員所属校でICT活用授業後のアンケートにおける生徒のこの題材の「授業はわかりやすい」を70%以上にする

<B食生活と自立(2)アイの授業後の生徒アンケート結果>

食品群の分類についての理解度

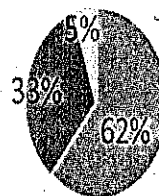
■よく理解できた ■理解できた ■理解できなかった



理解できた・よく理解できたの合計=98%

季節によって含まれる栄養素がちがうことについての理解度

■よく理解できた ■理解できた ■理解できなかった



理解できた・よく理解できたの合計=95%

生徒へのアンケートの方法を「わかりやすい」ではなく「理解度」を聞くことに変更したが、上記のように「よく理解できた」「理解できた」が多数を占める結果となった。

6 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程：平成28年 12月13日

場所：大阪市立住之江中学校 参加者数：約20名

上記の内容を原則としてA4判2ページで作成し、平成29年2月24日までに大阪市教育センター「がんばる支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)